

# 農地機構だより

～人と農地をつなぐ～ 第16号

(公財)しまね農業振興公社  
(農地バンク)

2020年 2月 発刊  
松江市黒田町432番地1  
0852-20-2871

## 動き出した農業委員会！

～地域と行政の橋渡しを担うために～



安来市農業委員会は、農業委員19名と農地利用最適化推進委員36名、事務局3名から構成されています。本農業委員会では、6月には中山間地域等直接支払制度の5期対策が始まることから、中山間地域の農業者を対象に意見交換会を開催。また、10月には、農家へアンケートを行い、その結果をもとに市、県などの関係機関との情報共有、農業者との直接の意見交換を行うなど、特色のある活動を展開しています。今回はその状況について紹介します。

## インタビュー



安松氏

中村氏

### インタビュー【安来市農業委員会】

農業振興対策委員長 安松 智 氏

事務局長 中村 一博氏

インタビュワー【県公社】 平塚、板倉

Q

今年の活動の経緯、狙いは？

A

今、農業委員会には、人・農地プランの実質化との関わりを求められています。当委員会の会長言：「この人・農地プランの実質化との関わりをすすめていくためには、行政などとの連携を行う必要を感じており、連携をするために何をすれば良いのか考えた結果、今回の活動を行うことにしました。」

Q

## 農家アンケートや農家との意見交換の内容は？

A

農家台帳において、自作地が 1,000 m<sup>2</sup>以上あり、かつ、市内に住所がある経営者を対象としました。アンケートは農地利用最適化推進委員が個別に農家を訪問し調査をしました。回答が得られた農家の数は 1,222 件のうち 1,146 件で 94%の回答率となりました。

### アンケートや意見交換で浮き彫りとなった主な地域の課題

- ・個人経営では機械の更新が難しい
- ・後継者が確実に継いでくれるものではない
- ・集落営農の設立に必要なリーダーがない
- ・集落内では担い手の確保が困難な集落への対応



農業者との意見交換会

Q

## 農家アンケートや農家との直接の意見交換を終えてみて感じることは？

A

農家の方は、研修会などで話を聞くことは多くても、意見を発信する機会は少ないと思います。昨年から実施している意見交換会の場や農家アンケートで、意見を発信する場をつくることができたのは良かったと感じています。

Q

## 今後の活動の展望は？

A

農家アンケートや意見交換会の場で、高齢化、後継者不足、鳥獣害被害など地域に課題があることが改めてわかりました。

少しでも前に進むために必要なことは「地域の話し合い」です。行政が主導で進めている人・農地プランがそのきっかけになるはずですが、農業委員会（農業委員、農地利用最適化推進委員を含む）はその内容を完璧に理解できていないと感じています。

今後は、まず人・農地プランについて丁寧に知ってもらおうと考えています。また、農業委員会の活動の必須項目とされている「農地利用の最適化の活動」も農業委員会だけではできません。関係機関や地域の協力がなければできません。

これから、農業委員と農地利用最適化推進委員が関係機関と地域との橋渡役となり農地利用の最適化の活動に繋げていきたいです。

## 編集後記

ようやく、まとまった積雪がありましたね。待ち望んでいた方もおられたのではないのでしょうか。

我が家でも5歳の息子が大喜び、「雪はこどもの夢～」と言って大はしゃぎ。でも、しばらくすると「寒いから雪だるまはお父さんが外で造って。僕は家の中から応援しているからね!」と…。

父が造る雪だるまを楽しそうに家の中から見ている息子なのでした。(YD)

